

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] スターチス新品種の育成

[担当機関名] 農業試験場暖地園芸センター 育種部 [連絡先] 0738-23-4005

[専門分野] 花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

暖地園芸センターではスターチスのオリジナル品種育成に取り組み、これまでに‘紀州ファインバイオレット’など7品種を育成しています。しかし、主要花色（紫、ピンク、ブルー、黄、白）のうちピンク系の品種はなく、ブルー系品種はラベンダー色の‘紀州ファインラベンダー’1品種だけです。そこで、オリジナル品種の花色充実のため、新たにピンク系やブルー系品種の育成に取り組みました。

[研究の成果]

1. 花色がピンク色の品種‘紀州ファインピンク’を育成しました（図1）。
2. ‘紀州ファインピンク’は対照品種とした‘フェアリーピンク’や‘アルテミスピンク’に比べ、枝が鋭角に出るので採花作業がしやすい品種です（図2）。
3. ‘紀州ファインピンク’の切り花長は高性の‘アルテミスピンク’と同程度で（図3A）、花房数が多いため秀品を採花しやすい品種です（図2、図3B、C）。
4. ‘紀州ファインピンク’の3月までの切り花本数は対照品種よりやや少ないです（図3C）。



花房の拡大写真



フェアリーピンク 紀州ファインピンク アルテミスピンク

図1 ‘紀州ファインピンク’の写真

図2 ‘紀州ファインピンク’と対照品種の切り花

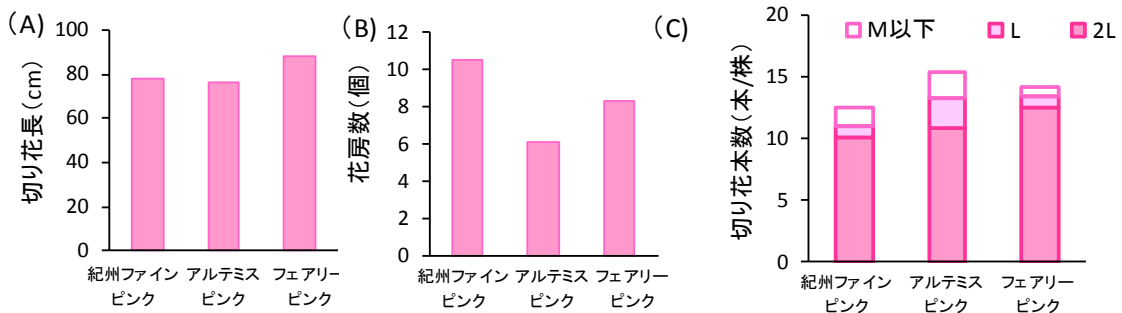


図3 ‘紀州ファインピンク’の特性
(A) 切り花長、(B) 花房数、(C) 切り花本数

調査日：H26年11月6日～H27年3月17日

調査場所：暖地園芸センター内ガラス温室

定植日：H26年9月10日、栽植密度：株間30cm、条間40cm、2条千鳥植え、最低夜温：3℃

2L：切り花長70cm以上、花房数5個以上、L：同60cm以上かつ4個以上、M以下：2L、L以外の切り花

5. 花色が淡い紫色の品種‘紀州ファインブルー’を育成しました（図4）。
6. ‘紀州ファインブルー’の切り花長は対照品種とした‘アナブルー’や‘インペリアルラベンダー’より長く（図6A）、花房を多数つけるため切り花にボリュームがあります（図5、図6B）。
7. ‘紀州ファインブルー’は豊産性品種の‘アナブルー’や‘インペリアルラベンダー’に比べると、切り花本数がやや少ない品種です（図6C）。



花房の拡大写真



‘アナブルー’ ‘インペリアルラベンダー’
‘紀州ファインブルー’

図4 ‘紀州ファインブルー’の写真

図5 ‘紀州ファインブルー’と対照品種の切り花

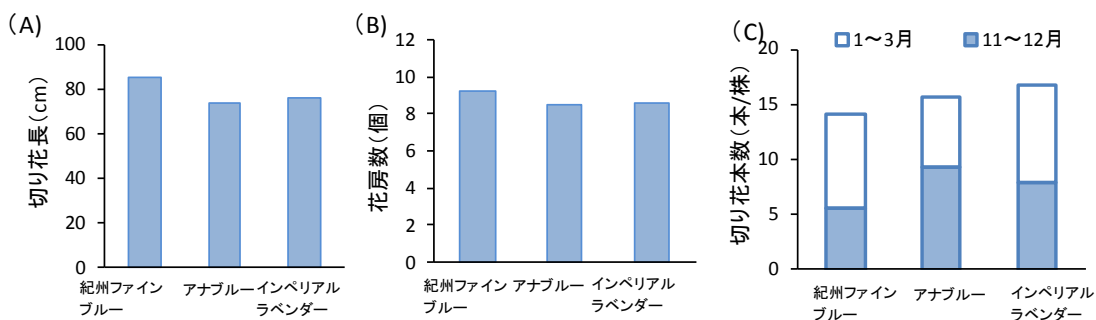


図6 ‘紀州ファインブルー’の特性
(A)切り花長、(B)花房数、(C)切り花本数

調査日：H26年11月6日～H27年3月17日

調査場所：暖地園芸センター内ガラス温室

定植日：H26年9月10日、栽植密度：株間30cm、条間40cm、2条千鳥植え、最低夜温：3℃

[成果のポイントと活用]

1. 上記2品種は2015年8月に品種登録出願公表されています。
2. 栽培は和歌山県内の生産者に限ります。
3. 種苗は和歌山県が許諾する民間の種苗生産業者で増殖され、生産者に活用されます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 研究期間：平成24～26年度

研究担当者名：小川大輔

発表論文等：なし

ホームページの掲載の可否：可